

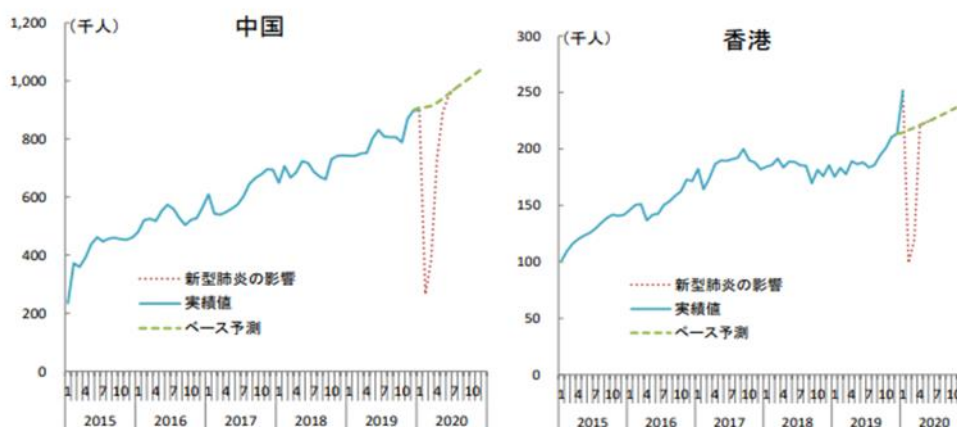
インバウンドコラム

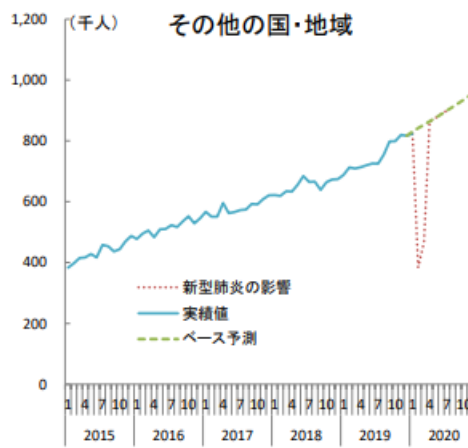
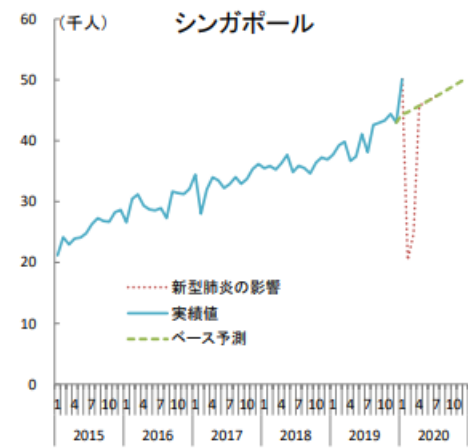
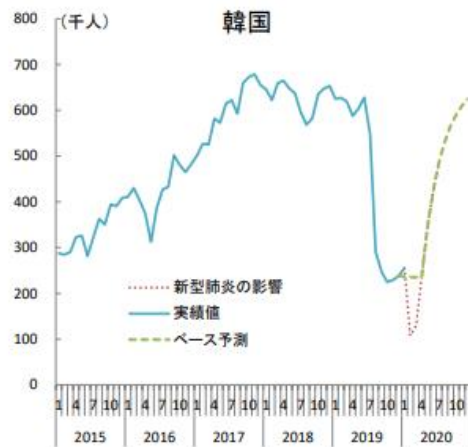
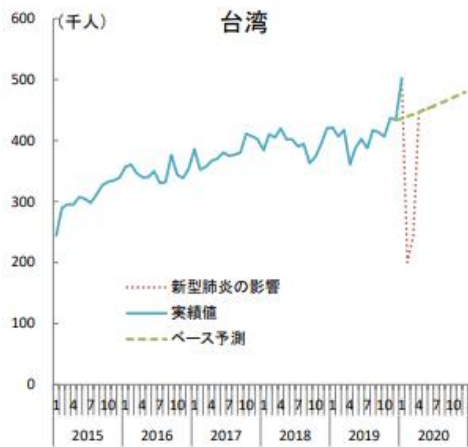
新型肺炎で訪日旅行者は年間 310 万人減少の恐れ

訪日旅行消費額では 2.9 兆円喪失か

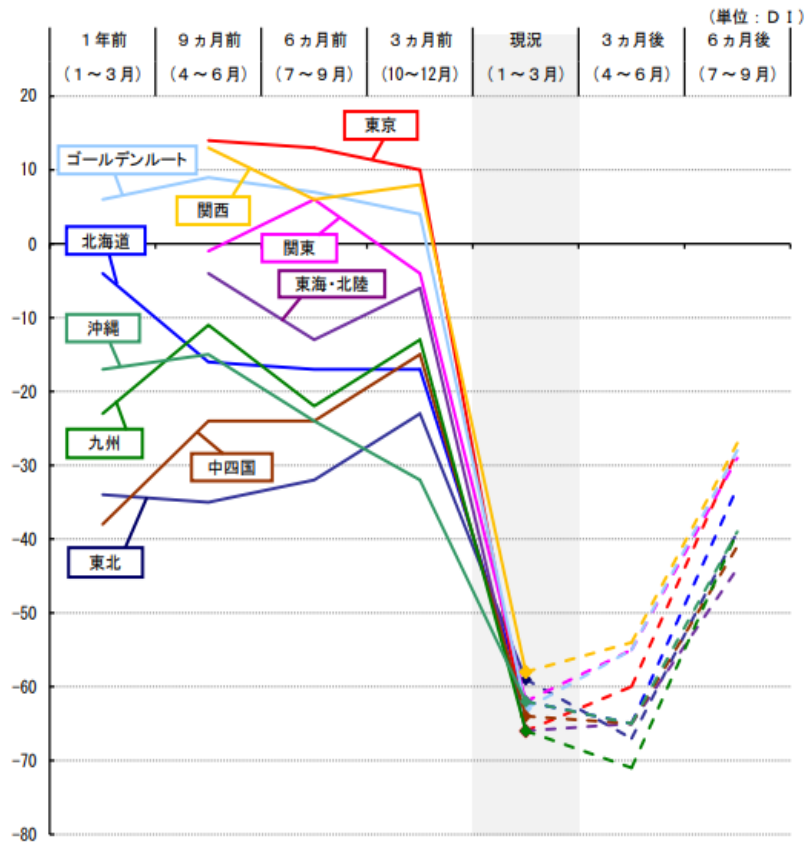
三井住友トラスト基礎研究所が、2003 年の SARS(重症急性呼吸器症候群)流行時のインバウンドへの影響から、2020 年新型肺炎による影響を試算したレポートを 3 月 3 日発表しました。SARS 流行時の中国からの旅行者数減少は、最大で単月マイナス 66%程度だったことから、それと同様の想定で 2020 年への影響を試算すると、中国人旅行者の減少は、年間約 135 万人。訪日客全体では 311 万人と予測しています。ただし、今回の新型コロナウイルスは、世界的パンデミックに拡大し、各国で大幅な移動制限が行われているため、インバウンドへの影響は SAR 以上となる可能性が非常に高く、このレポートデータは、あくまで最低限の影響と考えられます。(参照※1、表 1~3)3 月 12 日発行の日本旅行業協会のニュースリリースでは、2020 年 1 月~3 月訪日旅行の景気動向指数(DI 値)はマイナス 77 で、プラス圏だった 2019 年 4Q より 81 ポイントと大幅に低下しました。国内各方面別でも、全方面で低下し、好調だった「東京(TDR 含む)」も 76 ポイント低下し、-66 に落ち込んでいます。3 ヶ月後(4~6 月)は「ゴールデンルート」(+8)、「関東」(+7)、「東京(TDR 含む)」(+6)は回復しますが、韓国旅行者の多い「九州」や、現在、感染者数の多い北海道などはさらに低下する見込み。6 ヶ月後(7~9 月)は全方面で回復傾向となる見込みですが予断を許しません。(参照※2、グラフ a)

図表 6. 国・地域別にみた新型コロナウイルスによる影響





N:有効回答数
(N=120)



	1年前 (1~3月)	9ヶ月前 (4~6月)	6ヶ月前 (7~9月)	3ヶ月前 (10~12月)	現況 (1~3月)	3ヶ月後 (4~6月)	6ヶ月後 (7~9月)
北海道	-4	-16	-17	-17	-62	-65	-33
東北	-34	-35	-32	-23	-59	-67	-39
関東	-	-1	6	-4	-62	-55	-29
東京(TDR含む)	-	14	13	10	-66	-60	-28
東海・北陸	-	-4	-13	-6	-66	-65	-44
関西	-	13	6	8	-58	-54	-27
中四国	-38	-24	-24	-15	-64	-65	-41
九州	-23	-11	-22	-13	-66	-71	-39
沖縄	-17	-15	-24	-32	-62	-65	-39
ゴールデンルート(関東⇄関西)	6	9	7	4	-63	-55	-28

※「関東」「東京(TDR含む)」「東海・北陸」「関西」は、2019年6月調査で聴取方法を変更したため、以前のデータなし

観光政策研究者の山田雄一教授がトラベルボイスに寄せたコラムでは、2018年と比較し2020年旅行消費額がどれだけ下がるか試算されています。訪日旅行を秋ごろまで低空飛行が続き、年末に向けて回復へ向かうが、完全な復調は年明けと想定すると、訪日旅行では対2018年比40%減の2.9兆円の市場喪失と試算しています。(参照※3)

※1 SARS との比較 - 三井住友トラスト基礎研究所

https://www.smtri.jp/report_column/report/pdf/report_20200303_2.pdf

※2 JATA ニュースリリース | 日本旅行業協会

https://www.jata-net.or.jp/about/release/2020/pdf/200312_shijo.pdf

※3 ポスト・コロナ時代を見据えて | トラベルボイス

<https://www.travelvoice.jp/20200328-145751>